

ケースで学ぶ老年薬学

監修：日本老年薬学会

責任編集：大井 一弥

超高齢社会における医療の課題と
老年薬学の重要性

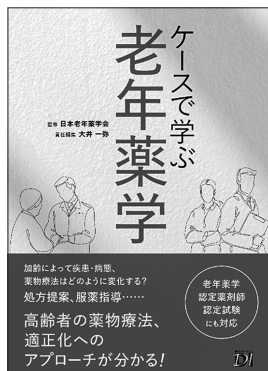
超高齢社会を迎えた日本では、高齢者医療における薬物療法は重要な課題である。高齢者は複数の疾患をかかえ、多剤投与によるリスクも高いため、従来の治療概念では対応できないケースも少なくない。「老年薬学」は、高齢者特有の薬物療法や加齢変化に対して薬学的管理・指導・介入を研究する学問であり、高齢者医療における薬物療法のエビデンス構築に貢献している。「ケースで学ぶ老年薬学」は、臨床現場で高齢者に個別最適な薬物療法を提供することを学ぶことができる実践的な書籍である。

本書は、老年薬学の概説から始まり、高齢者の代表的な22の疾患とその治療法、薬学的介入について、個別の事例をあげながら具体的に解説している。さらに、在宅医療における薬剤師の介入についても、在宅医療全般から緩和医療、終末期医療まで網羅し、現場で実践できる内容となっている。

特に、以下の点において役立つものとする。

- ・身体機能や生理機能が低下している高齢者の薬物動態を理解し、適切な薬物投与量や服薬方法を判断できる
- ・高齢者に特徴的な症候を考慮した高齢者医療のあり方について学べる
- ・高齢者の代表的な疾患とその治療法、薬学的介入法をマスターできる
- ・在宅医療における薬剤師の役割を理解し、患者や家族への支援方法を学べる

高齢者医療の質向上に貢献するため、本書の内容



B5判／320頁

定価：5,280円（本体4,800円＋税10％）

発行：日経BP（2024年1月）

を活かし、高齢者一人ひとりに個別最適化された薬物療法を提供していくことが重要である。しかし、高齢者の薬物療法においては、実際、複数疾患および多剤投与に対する有害事象などのエビデンスがまだ不足しているのも事実である。

本書は、医師、薬剤師をはじめ、高齢者医療に関わるすべての人にとって役立つ参考書である。高齢者に対する薬学的介入を積極的に行うと同時に、医師、薬剤師によるデータの集積が進み、そのデータが解析され、構築されたエビデンスを医師、薬剤師が活用することでさらに精微な個別化医療が実践されるという好循環が生み出されることを期待する。

株式会社アモール 代表取締役社長 橋場 元

（文：日経BP提供）